

# 8月の園だより

平成21年8月1日 発行 おぼやし保育園

## 夏を乗り切るために...

梅雨明けはしたもののまだ梅雨のような日が続いています。子どもたちは遊びの天才！うっとおしい天気や暑さをものともせず、夢中になって遊んでいます。泥んこ遊びも復活しました。8月に入り猛暑が予想されます。園では、昼食やお昼寝・休息の時にはクーラーをかけ充分休養が取れるようにしていますが、それ以外ではできるだけ、風通しのよい室内や木陰での遊び、戸外では水遊びなどで、汗をかくようにしています。冷暖房に頼りすぎず、暑さ寒さを体感する生活習慣を通して自律神経の発達を促すことがとても大切です。戸外では、猛暑で熱中症が心配ですが、水遊びをしたりできるだけ木陰で遊ぶようにしています。また、いつでも水分補給ができるように冷たいお水を用意しています。夏場は予想以上に体力を消耗しています。ご家庭に戻ったあとも、十分な栄養とたっぷりの睡眠がとれるようご配慮いただき、子どもたちが生き生きと夏の生活を楽しめるようにしたいですね。



## 芝生が生え揃いました...

園庭中央の芝生がほぼ生え揃い、子どもたちは柔らかい芝生の感触を楽しんでいます。保育参加の始まった6月2日に芝植え(芝は踏圧に強いティフトン419という品種を採用)を行い、約1カ月半養生しました。柔らかい芝生の上に寝転んで空を見上げると、吸い込まれそうな大きく広がる空を見えます。芝生の上で、子どもたちがどんな新しい遊びを考え付くのかこれからが楽しみです。

## 夏の感染症にご注意！

本格的な夏を迎え手足口病、プール熱など、夏の感染症が流行しそうです。お盆で医療機関も休診になりますので、**手洗い・うがい・疲れをためない(規則正しい食事と睡眠・早寝・早起き・朝ごはん)**で、予防に心がけてください。園ではお子さんの様子を観察し、疑わしい場合は保護者の方にご連絡します。(疑わしい場合は必ず医師の診察を受けてください。感染症の場合医師の許可がなければ登園できません。他の児童への感染を防ぐためです。ご理解とご協力をお願いします。)

8月の目標	
ヒヨコ	・水の感触や心地よさを味わいながら水遊びを楽しむ。
ウサギ	・健康に留意し、夏の遊びを楽しみ元気に過ごす。
すみれ	・暑さに負けず元気に夏の遊びを楽しむ。 ・衣服の着脱や身の回りの始末を自分で行う。
さくら	・プールや水遊びを思いきり楽しむ。 ・経験したことをたくさんの言葉で伝えあい共感し合う。
うめ	・目標を持ち、それに向かって努力する。 ・夏ならではの遊びを友だちと思いきり楽しむ。

### 8月の行事予定

3-7日 交通安全(夏の過ごし方-紙芝居)  
6日(木) プール参観  
(7日:予備日)  
10-15日 夏季希望保育(\*)  
(\*お弁当、飲み物をご持参ください。)  
17-21日 避難訓練  
19日(水) おたんじょうかい  
25日(火) お楽しみ会(夏祭り) (\*)  
(\*26日(水) プール遊びを行います。)  
31日(月) プール納め

※夏は水遊びや、泥んこ遊びが多くなります。お着替えは多めに補充してください。また、必ず、名前を書いてください。

## 連絡帳の記載について

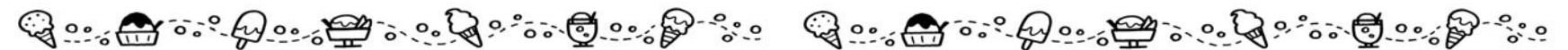
毎月10日、20日の午睡時に職員が園庭整備を行うことになりました。この日の連絡帳の記載は簡略化させていただきます。



## 8月 生まれのおともだち

### おたんじょうびおめでとう！

- 1日 ひがみ まきほちゃん(4さい)
- 20日 いしい あいりちゃん(4さい)
- 29日 しのはら ゆりかちゃん(1さい)



## 運動能力を育てる、親子のエクササイズ

ドッキング体操  
足腰を鍛える！  
「忍法からだ登り」

## 子どもの能力を育むワンポイントコラム

子どもはフリークライミングの要領でおとなのからだをよじ登るため、足腰の筋力が鍛えられます。おとなが子どもの手を引っ張って誘導するとき、手の力で登ろうとするのではなく、脚の力で登ることを自覚させてください。また、不安定な場所に立ちながら移動するため、バランス感覚も身につきます。

## 小学校へつなげる生活習慣

### 第5回 夏休みの家での過ごし方 文・増田時枝

夏休みは子どもとじっくり接することで、新たな発見をするチャンスです。興味や関心を伸ばしてあげながら、お手伝いなどの成長につながる取り組みもしていきたいですね。

夏休みです。子どもたちは、多くの時間を家庭で過ごすこととなります。これを機会に、お子さんとの時間の過ごし方を考えてみてはいかがでしょうか。

ノーベル賞を受賞した益川敏英、小林誠、下村脩の、各氏が、若い人へのメッセージとして「おももしろいと興味をもつ種」を広くまくことが重要。「多角的なアプローチが重要」「勇気づけることが大事」などと述べています。このことは幼児にも当てはまります。夏休みのさまざまな体験の中で、お子さんが興味や関心をもつような種を見つけて、心の土壌にそっとまいてあげましょう。それは、高原で見つける小さな草花や虫、あるいは海岸や磯でみる海辺の生きもの、新幹線やバスの車窓からみる景色や人々の働き、またはお母さんといっしょに作るお料理かもしれません。



せん。ふだんはできない経験から得た子どもの思いや感動は、おとなからみれば、当たり前のことであつたり、変わった見方だったりするかもしれない。でも、もの見方の多角的なアプローチと考えば、お子さんの思いも感動も受けとめられるでしょう。

また、長い休みは生活習慣が乱れがちになります。そうならないように気をつけながら、何かひとつ、きまった仕事をお手伝いとして習慣づけるのもよいでしょう。新聞を取ってきいたり、みんなのお箸や食器を並べたりなどです。新聞を渡したときのお父さんの「ありがとう」や、お母さんからの「助かるわ」といった、その都度かけられる感謝のことばから、家庭の一員としての意識が芽生え、大きくなくていく自分を実感できるのではないのでしょうか。



おとなはひざを出すと、子どもがからだを登りやすい状態を作ります。手をつないだまま子どもを引っ張って誘導し、子どもはおとなのからだを登ります。

膝、おなかまでなど、できるところまで登ってみましょう。肩までいいたら大成功！最後は子どものからだを揺くようにして降りてあげてください。